



花の遊歩道の会

桜のトンネル



アユの放流

入間漁業協同組合

入間川を泳ぐ魚は 私たちの大切な資源

私たちは、入間川の資源の中でも「魚」の保護に努めています。かつて昭和初期から中頃までの入間川は、アユ、ウグイ、フナ、ウナギ、ドジョウ、コイなど多様な魚が住む自然豊かな川でした。しかし、大雨が降ると川は度々氾濫し、水害も多く発生するなど、川の近くでの生活には大変な苦労もありました。

その後、護岸工事のおかげで水害に悩まされることも少なくな

りましたが、それと引き換えに、魚は産卵する場所を失い、今はその数も種類もかなり減ってしまっています。

人々の関心を入間川へ

そんな入間川の魚を増やし、保護することで、川を泳ぐ魚の生態系を崩すことなく、皆さんに安心して釣りや魚取りを楽しんでもらえるようにするのが私たち漁業協同組合の役割といえます。

近年、河川漁業を取り巻く環境は、カワウや外来魚の食害による在来魚の減少に加え、釣りなどを



▲魚を放流するようす(1974年)

楽しむ遊漁者の減少により変化してきています。そのため、私たちはアユやナマズ、フナ、ドジョウなどの放流によって河川環境を改善し、また、カワウから魚を守るための仕掛けを設置することで、入間川の生態環境を守っています。

さらに、特定外来生物であるブラックバスの調査のほか、狭山市観光協会と連携して毎年3月にニジマス釣り体験を行うなど、川への関心を高める事業も実施しています。皆さんが気軽に入間川へ足を運ぶきっかけをつくるのも、私たちの大事な役割の一つと考えています。



入間漁業協同組合 廣岡正二さん

いいね！と思える入間川に

私たちが目指す入間川の姿は、たくさん魚が泳ぎ、そこで子どもから大人まで多くの人が、川遊びや釣りを楽しむことです。狭山市ができるずっと以前から脈々と流れているこの川の資源を守ること、それが私たちの誇りだと思っています。

地元の名所 「桜のトンネル」

私たちの住む柏原ニュータウン周辺のサイクリングロードには、春になると歩道を覆うようにソメイヨシノの花が開き、「桜のトンネル」が姿を現します。それは見事な光景で、この地域の人々にとって定番の散歩コースとなっています。



花の遊歩道の会 山田八重子さん(写真中央)

そんな、地元の人々に愛されるこの場所が、もっと素敵な場所になるといいな、もっと多くの人に知ってもらえるといいなと、漠然と考えていました。

きっかけは 一つのコンテスト

そんなときに、ふと目にしたのが「2020狭山市地域活性化アイデア・コンテスト」です。狭山市の活性化につながるアイデアを募るこのコンテストに、「入間川花の遊歩道」というアイデアを



▲来年の春にはこの場所が菜の花畑に



▲理想はこのような景色 写真提供: 秋田県大瀧村

応募しました。それは、この桜のトンネル沿いに、桜と同時に見頃を迎える菜の花を植えるというもの。この光景を見に、市内外から人が訪れ、狭山市がもっと盛り上げられるという思いがあったからです。

目指せ、狭山の春の風物詩

結果は、なんと優秀賞を獲得。狭山市ビジネスサポートセンターの協力を得て、2名の友人と実現に向けて動き出すことになりました。まずは今年の10月上旬、

水野野集会所付近に、約70メートルにわたって種をまく予定です。いずれはもっと長く花の遊歩道をつなげ、訪れた人が花を摘んで持って帰ったり、菜の花でマスタード作りをしたりと、見るだけではない楽しみ方につなげていければいいと思っています。

夏の狭山市入間川七夕まつり、秋の入間航空祭に続き、この花の遊歩道が狭山の春の風物詩になってくれたら嬉しいですね。

問合せ 商業観光課へ

内線2551